



山中みさお県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

アクティブスクールに指定

泉高校

地域の教育力を活用へ!

9月県議会一般質問に登壇



泉高校の新たな取り組みを語る山中操県議

自立した社会人の育成目指し 主体性や能力を伸ばす取組み

「元氣な千葉県を築く」ことを約束し、県議会3期目の活動を続ける若葉区選出の山中操(やまなか みさお)県議は、9月定例県議会の一般質問に登壇し、本年度から地域連携アクティブスクールに、地元の県立泉高校が指定されたことから、引き続き県教委の継続的支援を求めました。この指定で、同校は地域とともに歩む学校を目指し、さまざまな地域力を活用した教育活動が展開され、生徒の主体性や能力を伸ばす取り組みが行われることになりました。山中県議は、ほかにも自動車税の滞納整理や国民健康保険料の収納問題などで県執行部の考えをただしました。山中県議の主な質疑を特集しました。

山中議員 県教育委員会が、本年3月に策定した「県立学校改革推進プラン」でも、目指すべき県立学校像として「地域の人が集い、地域に愛され、地域とともに歩む学校」など3点が掲げられました。

このプランで示された特色ある学校づくりの中でも、地域のさまざまな教育力を活用し、自立した社会人の育成を目指す「地域連携アクティブスクール」は、本県初の試みとして注目されています。

さらに、キャリア教育を推進するコーディネーターを活用した就業体験、NPO団体等と連携しコミュニケーション能力を育成する授業や農業体験を実施し、子どもたちの主体性や能力を伸ばす取り組みを行っているところです。

私の地元である千葉市若葉区の県立泉高校もこの指定を受けましたが、地域の方々からは「魅力ある学校づくりの力になりたい」「子どもたちが社会に巣立つお手伝いをしたい」などの申し出も多く、新たなタイプの高校に期待が寄せられています。私もこのような取り組みを、今後とも拡充していく必要があると考えています。そこで伺います。県立泉高校の地域連携アクティブスクールとしての取り組み状況はどうか。

教育長 県教育委員会は、本年4月、これまでの研究実践を踏まえ、泉高校と天羽高校を地域連携アクティブスクールに指定しました。泉高校では、地元大学生による学習ボランティアや教育相談の経験豊かなスクールソーシャルワーカーを配置し、きめ細かな支援を行い、学校生活への意欲が向上するなどの成果を上げています。

今後、地域連携アクティブスクールが、自立した社会人の育成に向け地域のさまざまな教育力を活用しているところです。

国保収納率ワースト2位

●県政や若葉区のご意見・ご相談をお気軽にお寄せください

山中みさお 県議事務所
〒264-0024 千葉市若葉区高品町1585-21 TEL.043-234-5252
FAX.043-233-7411
ホームページ=http://www.yamanakamisao.jp
Eメール=info@yamanakamisao.jp

山中議員 国民健康保険は、国民皆保険の中核となる制度であり、今後とも安定的な財政運営が求められますが、運営の基盤となる保険料・保険税の滞納が多いと聞いています。本県の収納率はどうなっているのか。

健康福祉部長 国民健康保険料・保険税の県内市町村の平均収納率は、現在確定している最新データである平成22年度の現年度分で、85・97%となっています。なお、全国平均の収納率は88・61%で、本県の収納率は都道府県別でワースト2位となっています。

山中議員 収納率向上のため、市町村ではどのような対策に取り組んでいるのか。また、県としてどのような指導や支援をしているのか。

健康福祉部長 市町村では、口座振替やコンビニでの収納など納付しやすい環境の整備を行うとともに、職員のほか徴収嘱託員を配置し、滞納している方に対する戸別訪問等の機会を増やし、直接、納付の勧奨

ながら、より一層地域に愛され、信頼される学校となるよう努めてまいります。

要望
地域連携アクティブスクールについては、継続的ななお一層のご支援をお願いしたい。

自動車税の滞納整理対策

コンビニ利用の収納率4割

滞納には差押えで厳正対処



山中操県議の再質問から

山中議員 平成24年度当初予算では、自動車税による収入は約755億円と、県税全体の12%を占めています。私はこれまで、自主納付しやすい環境を整備することで、納期内納付を向上させる対策が重要だと、コンビニ収納の導入などについて、県議会で何度も質問してきました。現在、自動車税のコンビニ収納の状況はどうか。

総務部長 平成17年度から導入した自動車税のコンビニ収納の利用率は、初年度では22.5%でしたが、23年度には40%となり、

順調に利用拡大が図られています。なお、この利用拡大に伴って、自動車税の納期内納付率も、導入前の61.4%から24年度には72%と着実に向上しています。

山中議員 自動車税のクレジットカード収納を導入すべきと思うがどうか。

総務部長 クレジットカード収納の導入は、クレジット会社に対して支払う手数料や他の収納方法での県の費用負担との公平性など、解決すべき問題があります。一方で、納税者がコンビニ等へ出向くことなく、また手持ちの現金が

のように取り組んでいくのか。

森田知事 滞納者数の多い5カ所の県税事務所に自動車税整理課を設置し、預貯金や給与など債権を中心とした差し押さえ処分を積極的に実施するなど、厳正な滞納整理を実施し県税収入の確保に努めております。

この結果、自動車税を専門に徴収する組織を設置した平成15年度以降、ピークだった16年度には6.59ポイントだった滞納率を23年度には5.03ポイントまで削減させ、額も35億6千万円まで減少させました。

なくとも納付できるという利便性の向上により、納期内納付が拡大することから、現在1都12県で導入されています。

今後、費用対効果を見極めながら、検討を進めてまいりたいと考えています。

山中議員 自動車税の徴収強化に、ど

9月県議会一般質問 若葉区特集

「動物看護師」制度が認定へ

山中議員 人と動物が共生できる社会の実現を目指すうえで、動物愛護精神の醸成は大変重要であり、千葉県獣医師会など動物関係団体と連携して、動物愛護をより積極的に推進していただきたいと考えています。動物愛護について、県はどのように考えているのか。

保健医療担当部長 獣医師の補助的業務に従事する者については、動物関係団体や専門学校等がそれぞれ独自に育成し、その資格を認定して、「動物看護師」「アニマル・ヘルス・テクニシャン」など、その名称も異なっているのが現状です。

そこで、一定の知識と技術を習得した者を認定するため、日本獣医師会を中心とした関係団体の連携のもと、平成25年2月に初の統一認定試験が実施され、その名称は「認定動物看護師」になると聞いています。

この試験の実施により、動物看護師の社会的認知が高まり、活躍の場が広がることは、質の高い獣医療の提供につながることも、動物愛護の推進に寄与するものと考えます。

山中議員 動物愛護のため、どのような取り組みを行っているのか。

保健医療担当部長 県では、動物関係団体や動物愛護推進員などの協力を得て、地域での動物愛護意識の浸透を図っています。具体的には、広く県民に動物愛護意識を持ってもらうため、動物愛護フェスティバルや動物愛護教室などの開催、県や市町村の広報紙、パンフレット等による啓発を行っています。

は、動物関係団体や動物愛護推進員などの協力を得て、地域での動物愛護意識の浸透を図っています。具体的には、広く県民に動物愛護意識を持ってもらうため、動物愛護フェスティバルや動物愛護教室などの開催、県や市町村の広報紙、パンフレット等による啓発を行っています。

を更新するなど、安全性の向上に努めたところです。今年度も引き続き、車両の更新や枕木の交換を行うほか、踏切設備や無線設備の更新を予定しています。

県としては、こうした取り組みが着実に進むよう、関係市町と連携して支援してまいります。

要望 列車の脱線事故など、日本でもいろいろありました。ぜひ、安全面を重視していただきたい。せっかくの楽しいひと時が一瞬にして大変なことになってしまふことはよくあることだと思えます。厳しい予算だとは思いますが、安全面だけは特別に注意していただくことを要望します。

山中議員 かずさアカデミアパークに関連し、かずさDNA研究所の優れた研究成果を活用して、民間企業との応用・実用化に向けた共同研究を推進し、最終的に製品化・事業化を図るためどのように取り組んでいくのか。

森田知事 研究成果を製品化や事業化につなげることは重要であり、平成19年に「バイオ産業技術支援センター」を設置し、研究とビジネスの橋渡しを行うコーディネーターが、共同研究先の開拓に努めるとともに、製品開発を行う企業への技術支援を推進しています。

これまでに、アメリカのバイオ企業と共同で開発した「ヒト遺伝子クローン」の有償配布を通じ、病気の解明や新薬の研究に利用されるなどの成果が挙がっています。

また、現在も花粉症などの免疫アレルギー疾患の診断・治療方法に関する共同

山中議員 いすみ鉄道 道の安全輸送のため、設備整備はどうなっているのか。

総合企画部長 いすみ鉄道では、国や県、関係市町村からの補助金を活用して、線路や車両、信号などの安全輸送のための設備を計画的に整備しています。

平成23年度は、老朽化した車両2両を更新したほか、枕木の交換や自動列車停車装置



山中操県議の質疑を聞く傍聴席の市民